

価値ある歴史を未来へつなぐ

伊仙町誌

便り

2022年3月

vol.

02



町制施行60周年記念 「令和版伊仙町誌」資料集①

復刻版

「更生の伊仙村史」(昭和11年刊行)

「伊仙町誌」(昭和53年刊行)

A4判・全556頁・定価 ¥2,500

「令和版伊仙町誌」資料集① 販売が始まります

奄美群島のみならず日本全体が経験した激動の時代。
令和版伊仙町誌編纂事業の第一歩として、その頃の私たちの故郷の姿、
そして原点を見つめ直す礎として最適の書となります。

<本書の内容>

「更生の伊仙村史」	第一章 本村の地誌	第二章 本村の沿革	第三章 本村の教育と宗教
	第四章 風俗習慣	第五章 各官衙沿革	第六章 沿革年代表 第七章 雑事
「伊仙町誌」	第一編 伊仙町の概観	第二編 伊仙町の歴史	第三編 復帰以後の伊仙町
	第四編 教育	第五編 宗教・文化	第六編 民俗 付 伊仙町歴史年表

ご注文 伊仙町役場正面入口・歴史民俗資料館・直売所百菜・ほーらい館・他島内各所

問合せ 伊仙町誌編纂室 〒891-8201 鹿児島県大島郡伊仙町伊仙2945-3
TEL:0997-86-4183 FAX:0997-86-4184

※ 申込書が届き次第、編纂室より請求書と共にお送りしますのでお振込みをお願いします

伊仙町誌編纂審議会

令和三年八月五日、第一回目の「伊仙町誌編纂審議会」を開催し、委員長に日本古代史学の重鎮である石上英一氏（東大名誉教授）、副委員長に小野寺浩氏（鹿児島大学客員教授）、四本延宏氏（奄美群島文化財保護対策連絡協議会会長）が選ばれました。他に各四名の専門家と地元有識者、行政代表者を委員とし、闊達な意見交換がなされました。

審議会内では主に、「伊仙町誌編纂基本計画」「同事業計画」「事業経費」について話し合われ、論点として左記が挙げられます。

- 黒潮文化や島々の成り立ち、人類の移動、また明治維新等大きな時代の変遷、これからの伊仙町の在り方のみならず、日本全体の在り方も考えられるのでは
- 新スタイルの町誌を意欲的に作る方向で
- 徳之島に狩猟採集民が何千年もいた事は世界的にまれ。一般へ分かり易く表現を
- 専門家が読む前提だと、町民には読み切るのが難しい。住民と将来世代目線での
- 学術的、客観的な現在における事実を明らかにするのが、今後様々な活用の基礎
- 近年若者は島に対して、大変な誇りを持っている。町誌を通じて、歴史をさらに深く知り、子供たちが大きな自信を持ってこれからも生きていけると思う

伊仙町誌編纂基本計画

〈目的〉

- ① 伊仙町の過去から現在の変遷を忠実に記録し、幅広い見地から本町の位置付けを明らかにする
- ② 貴重な文献資料やデータを広く公にすることで、住民、出身者、その子孫にまで、歴史と伝統に根付いた本町の在り様を継承し、地域プライドを高める
- ③ 伊仙町の自然や史実、伝統文化を改めて見直し、将来進む方向の礎とする
- ④ 伊仙町に関する有形無形の歴史的、学術的、また行政資料を整理、保存、管理することで、未来のまちづくりへ生かす
- ⑤ 編纂過程での資料提供、聞き取り、ワークショップなど住民の関与を高めることで、過去の記憶と未来をつなぎ、集落の活力源とする

〈特徴〉

- 歴史、文化、地域的特性が際立つ伊仙町の特徴を、生活者（住民）視点にも重きを置き表現する
- ジャンル横断、融合型の執筆構成
 - 集落聞き取り調査への各集落民の参画
 - 聞き取りを通じ多世代生涯学習の一環
 - 郷友会への情報発信と協力依頼
 - 島口保存も含め、個人のライフストーリー、語りの動画記録

ご協力依頼・お知らせ

町誌編纂に当たり、伊仙町、徳之島、奄美群島、琉球、薩摩にまつわる様々なジャンルの資料を集め、検証、記録しています。

もしお手元に左記の資料（冊子・新聞・発刊物・写真・音声データ・映像など）があり、参考資料としてお借り、またはこの機会に寄贈して頂けるものがあれば、ご一報下さい！
☎0997・86・4183

- ・文化 ・町政 ・島口 ・地図 ・人物
- ・民具 ・歴史 ・産業 ・島唄 ・食
- ・選挙 ・闘牛

町誌編纂専門員として次の方々にご協力頂いています。今後各集落へ出向く際には宜しくお願いします。

四本延宏さん
常加奈子さん

同専門員としてご尽力頂いた大村達郎氏が一月二十五日急逝されました。謹んでご冥福をお祈り致します。

伊仙町誌 便り vol.02

鹿児島県大島郡伊仙町伊仙2945-3
伊仙町歴史民俗資料館1階
TEL:0997-86-4183 FAX:0997-86-4184
Email:rekiminkan01@t1.tokunoshima.net